

「Zoom」の導入、支部IT推進委員の推薦を進め、8月22日(土)から24日(月)の3日間の一回の推進委員向けの『オンライン会議体験会』が本部主催で行われま



東洋大学校友会オンライン会議体験会 Zoom

Zoomは、令和2年10月以降に、情報化システム推進による校友会の活性化を目指して『オンライン会議』の導入、支部IT推進委員の推薦を進め、8月22日(土)から24日(月)の3日間の一回の推進委員向けの『オンライン会議体験会』が本部主催で行われま

オンライン会議導入に向けて

事前体験会が開催されました

東洋大学校友会埼玉県東部支部《リーフレット版》

彩の国さいたま 第2号

作成/2020年9月1日 東洋大学校友会埼玉県東部支部 広報部

この「彩の国さいたま」《リーフレット版》は、校友会埼玉県東部支部の最新の活動状況、企画案内、会員の動向などの情報を、支部会員の皆様に年数回、不定期でお届けするものです。速報情報は、支部役員および会員の皆様から頂戴した情報を写真とともにまとめていきます。なお、リーフレット版は、画像電子版として作成していますので、支部のPCに登録済会員の皆様に配信しています。また、必要に応じて、東洋大学校友会HPの支部ブログにも掲載致しますので、奮ってお読み頂きたく存じます。

支部広報担当
黒井登起雄(副支部長)

した。私(黒井登起雄)は、23日(日)自宅から参加し、PCによるオンラインミーティング (Zoom meeting) の接続、会議への参加、マイクとビデオによる会話やチャットによるメッセージ入力などの体験を約90分間行いました。タブレットやスマホ (android) でも対応できますが、PC、次いでタブレットによるミーティング参加が比較的操作し易いようです。なお、オンライン・ミーティング参加の感想は、事務局から送信される招待URLへの接続ができさえすれば、当日の参加者に聞きながらその後の機能操作ができるということでした。審議の賛否やアンケート調査の投票もでき、音声だけでなく、ビデオ映像を見て、参加者全員または個人に文字入力による情報伝達もでき(参加者に操作を聞きながらでも)、会議に違和感なく参加できました。今後は、多くの支部校友会員の皆様がPC、タブレット、スマホ (android) のいずれかのIT (情報伝達) 機器を支部、本部の連絡に用いられることを期待する思いです。なお、この度のIT推進委員向けの『オンライン会議体験会』には、中里繁夫支部長(昭和50年土木)、中山貴史支部事務局長(平成元年応社)、廣田剛本部長(昭和60年法律)、黒井登起雄支部広報部長(院修昭和46年土木)の4名が参加いたしました。

澁澤榮一翁『論語の里めぐり』!

【プロローグ】

私は、株式会社組織による企業の創設と育成に力を入れた日本の近代経済社会(殖産興業)の基礎を構築することに貢献し、「第一国立銀行」を設立した人物(実業家)の一人として「澁澤榮一(青淵翁)」を近代日本史で学びました。澁澤榮一は、明治29年に第一銀行になってからの「初代頭取」でもあります。近代日本史では、『第一国立銀行設立』に関わったことだけを学んだだけで、高校時代の私には、あまり関心の高い人物ではありませんでした。五〇〇社以上の株式会社設立に澁澤榮一が関わっていることを知ったのは、昭和48(1973)年に足利工業大学(現足利大学)へ勤めてからのことでした。その澁澤榮一(青淵翁)は、令和5(2024)年に新一万円札の似顔絵になることが発表され、令和3(2021)年度のNHK大河ドラマ「青天を衝け」で主人公に取り上げられてもいます。今、話題性の高い近代日本史の人物(実業家)でもあります。

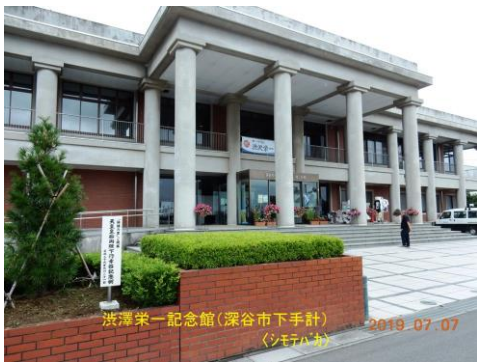
【澁澤榮一生誕地】

澁澤榮一は、近代日本史で知っていても、生誕地の埼玉県深谷市が生誕地で、殆どの皆様は、そこを訪れたことがないでしょう? 生誕地は、中瀬(なかせ)“血洗島(ちあらいじま)”手計(てばか)“八基(やつもと)”新戒(しんかい)などの難しい読み方の字名のある地域の

“血洗島”地区で、前九年役の際に源義家が刀を洗ったことに由来した地名とも云われています。この地域は、江戸時代に利根川の支流の小山川、清水川の舟運によって養蚕の繭や藍玉を江戸まで輸送したところでもあります。生誕地の近くの、中



旧日本煉瓦製造所のホフマン6号窯 (2011.11.13撮影) (現在、保存修理の耐震補強工事中)



澁澤榮一記念館 (2019.7.7 撮影)



旧澁澤邸「中の家」・生誕の地 (2019.7.20 撮影)



澁澤榮一ゆかりの煉瓦建築、誠之堂・清風亭 (2019.8.10 撮影)



尾高惇忠生家の煉瓦土蔵 (2019.7.20 撮影)



瀬”地区には、清水川の船着場もあります。
【深谷市の論語の里めぐり】
 今の私は、高校・大学を卒業してから縁があつて、昭和56(1981)年から深谷市の隣の熊谷市に居住しています。深谷市の煉瓦工場(旧日本煉瓦製造工場(株)上敷免工場)は、セメントコンクリートに関する

る材料学(足利工業大学工学部在職時)を専門技術としておりましたので、良く知るようになりました。大学生とともにJR深谷駅からの煉瓦工場専用線(深谷駅〜上敷免)跡地の遊歩道、プレートトガーダー橋展示、煉瓦工場の Hoffman 輪窯(国重要文化財指定の一つ)などの見学にも行き

ました。旧煉瓦工場の Hoffman 輪窯は、保存修理の耐震補強工事が令和6(2025)年頃まで行われています。補強工完了後には、また訪れたいと思います。澁澤榮一翁の足跡は、この他にも、「澁澤榮一記念館」「澁澤榮一一家」「尾高惇忠(藍香)生家・煉瓦土蔵」「誠之堂・清風亭」など煉瓦造・煉瓦風造りの史跡が市内に広く点在しています。JR深谷駅の橋上駅舎も東京駅を模した煉瓦風造りの一つです。

【エピソード】

近代日本資本主義の父と云われる実業家・澁澤榮一翁は、埼玉県民・深谷市民が誇る人物であり、出版物『論語と算盤』を読まれた校友の皆様も多数いらつしやるかと思ひます。只今は、日本だけでなく、全世界が“新型コロナウイルス”の感染の拡大”の収まる心配をみせず、観光・見学を積極的に計画できない状況にあります。感染拡大が収まることを期待しつつ、校友会埼玉県東部支部では、「支部女性の集い」の催しとも連携して、令和3年秋頃には、深谷駅または熊谷駅発着の『澁澤榮一論語の里めぐり』(観光バス)を企画する予定にしています。なお、詳細計画は、支部会報「彩の国さいたま第17号」(令和3年5月に発行を予定)に掲載し、ご案内を校友の皆様にお届け致します。また、企画に当たっては、深谷市、熊谷市在住在勤の校友の皆様のご協力もお願いしたいと思います。支部会員に限らず、多くの他支部会員の皆様のご参加も願っています。

(写真編集・文責：黒井登起雄)

※深谷市観光情報とアクセス…JR深谷駅の北側に澁澤榮一ゆかりの観光施設(中の家生家、記念館、誠之堂・清風亭など)が点在しています。アクセスは、「くるりん号」の一日乗車券(二〇〇円)の利用が便利です。バスの発着場所、時刻は深谷市HPで確認して下さい。
www.city.fukaya.saitama.jp/

支部校友会の活動状況の情報を左記のメールアドレスにお寄せ下さい。(広報担当 黒井登起雄)



JR 深谷駅と駅前の青淵 澁澤榮一像 (2019.8.10 撮影)



JR 深谷駅の煉瓦風駅舎 (正面, 2020.3.15 撮影)